

「教育特区の学校」を知ろう！

# 子どもたちの成長が、いつしか 自分の喜び、そして新しい夢に



美川特区アットマーク国際高等学校

スクールコーチングプログラム 2年生 18歳

日暮 竜哉 さん

ちょっとしたきっかけで学校をやめてしまったという日暮竜哉さん。それと同時に、サッカー選手になるという夢を一度は見失ってしまいました。しかし、知人の紹介で美川特区アットマーク国際高等学校に入学し、「こんな楽しくていいのかな？」と思うほど、充実した毎日を送っています。そこで見つけた新しい目標とは.....

風邪というささいなきっかけで.....

高校1年の夏休みが明ける直前のことでした。風邪をひき、2学期の最初の1カ月くらいを休んでしまったのです。風邪が治って学校に行ったらすぐテストだったのですが、まったくできませんでした。それからどこか「もういいや」という気分になってしまい、学校に行かずにフラフラする毎日、そして11月には休学届を出して留年したのですが、学校に行かないまま退学してしまいました。

それまでサッカー部に所属してプロを夢見ていた僕は、目標も見失い、しばらくは何もしないで過ごす日々でした。僕の父は昔、実業団の選手だったこともあって、近所のサッカークラブでコーチをしていました。そこで、そのチームでコーチの手伝いをしてみたら、と言われたのです。それから、子どもたちとボールを追うことができる土日が毎週楽しみになっていきました。

そうしてしばらく子どもたちにサッカーを教えたりしながら過ごしていたのですが、クラブのほかのコーチから「学校に行った方がいいぞ」と言われたのです。ちょうどその頃「このまま学校に行かず、自分はどうするんだろう」「このままの生活じゃいけない」などといろいろと思い悩んでいた時期だったので、学校に行くことをすすめられた時はドキッ！としてしまいました。

先生から学んだこと  
それが今の僕の支え

学校に行った方がいいとアドバイスしてくれた人は、実は今の高校のスタッフの方と知り合いだったのです。そしてすすめられるままに面接に行ってみたものの、その時までにはあまり乗り気ではありませんでした。

でも実際に行ってみると、それまで僕が思っていた学校のイメージとはまったく違っていて驚きまし

## 「美川特区アットマーク国際高等学校」はこんな学校

石川県白山市に本校がある広域通信制高校です。遠隔からの個別学習指導が可能で、インターネットなどの通信ツールを活用し、一人ひとりの個性や才能を最大限にのびします。「これをやりなさい」ではなく、「これがやりたい！」をオーダーメイドで自由に学べる、まったく新しいスタイルの高校です。(詳細は64ページ)



た。いろいろな教科が選べ、その中にはスポーツ心理などの科目もあり、面白そうな勉強ができると思ったのです。それに授業も、先生が黒板に延々と板書をして、それを生徒がノートに書き写すという、いかにも「勉強」という形ではなく、先生との距離が近いアットホームな感じの授業でした。

入学を決めてからもしばらくは、ずっと学校に行っていなかったブランクが心配でした。しかしこの先生たちは、学校に行かないときに縮んでしまっていた僕のいろんなものを伸ばしてくれているようでした。それは気持ちとか表情とか。それがすごくうれしかったですね。

去年はスクールに通う生徒が少なく、授業は1対1に近い形で、それが合っていたというもあります。今にして思えばすごく贅沢な時間でした。興味を持ったことを大切にしてくれて、英語の授業でもスペイン語について教えてくれたり、また、放課後にはピアノのレッスンなどもしてくれました。担任のN先生はどんなことでも、まず楽しむという姿勢で、そんな先生からさまざまな事を学び、それが今の僕を支えています。

### 毎日がこんなに 楽しくていいのかな？

学校ではイベントもさかんです。毎週火曜日には体育館でバレーやバスケットをやったり、乳がん撲滅のためのピンクリボンキャンペーンなどに参加したことも、いい思い出です。それにスクーリングには全国から生徒が集まってくるので、友達がたくさんできました。

そんな感じで、入学してからの1年はあっという間に過ぎ、充実した毎日でした。学校に行っていて、こんな楽しくていいのかな？なんて思ったり(笑)。この学校に通うようになってから、自然と笑顔が増えました。サッカークラブでも「顔つきが変わったね！」などと言われます。

### 新しく見つけた目標 それは……

ただ将来のことを考えると、ずっと不安でした。それまでサッカーばかりやってきたので、この学校には部活もないし、自分からサッカーをとったら何ができるんだろう……と。でも、今は新しい目標を見つけられました。それは「サッカーを教えること」です。

もちろん今でもプレーするのは楽しいですが、子どもたちにサッカーを教え始めてから、教えることの楽しさというものを知りました。多分うまい人だったら、リフティングができない子どもがなぜできないのかわからないと思います。しかし僕は器用なタイプじゃなかったんで、苦労しながら技術を身につけてきました。どうすればできるようになるのか、それを考えながら練習してきたので、教えるときも今までの経験が活きていると思います。最初リフティングが10回しかできなかった子どもが、100回できるようになった、その成長を手助けできる喜びは、すごく大きいんです。

子どもたちはすごく純粋で、教え方しただいどんどんうまくなっていくくれる。子どもたちにはサッカーを教えた以上に、いろんなことを教えてもらったような気がします。だから将来、サッカーチームの監督を目指すことは、僕にとっては自然な選択でした。

その目標を持ってから、父との距離はぐっと縮まった気がします。部活でやっていた頃は、父が実業団に所属していたことが少し重荷で……。しかし今は、父を身近な監督の手本として、素直に尊敬できるようになりました。

だから今後は専門学校に進学し、本格的にコーチの勉強をし、ステップアップしていきたいと考えています。父や母に苦労をかけたので、今度は監督として立派になって安心させたいですね。そしていつかは観客を楽しませる、選手自身も楽しめる、そんなサッカーをするチームの監督になれたらいいな、と思っています。